2021（令和 3）年 6 月 30 日
「九州方言における最小語制約の類型化に向けて：談話データを用いた初期報告」
発表者：松岡 葵（九州大学大学院博士後期課程）

本発表は，宮崎県椎葉村尾前方言（以下，尾前方言）における最小語制約を記述した。最小語制約は，語は最小で 1 フットをもつという制約であり（McCarthy and Prince 1986, Hayes 1995: 47），尾前方言において基底で 1 モーラしかもたない名詞（以下，1 モーラ名詞）は母音を延長させることによって 1 フットを形成する(1)。一方，(2)に示すように母音延長が生じない場合もある。

(1) 母音延長あり
mee=zyattara
目=だったら
「目だったら」

(2) 母音延長なし
me=ni kitara
目=に 来たら
「目（の方）に来たら」

本発表では，尾前方言を対象に，談話データ（約 29 時間）で出現した 409 例の 1 モーラ名詞のデータ（表 1）に基づいて以下の 2 点を主張した。

(3) 格助詞・取り立て助詞が後続する場合は母音延長が生じにくく，コピュラ・終助詞が後続する場合は母音延長が生じやすい。
(4) 修飾要素がある場合，母音延長は生じにくい。

表 1. 1 モーラ名詞における母音延長の有無（×；延長なし，〇；延長あり）

	修飾要素なし		修飾要素あり	
	×	〇	×	〇
格助詞	154	4	95	2
取り立て助詞	34	7	82	2
コピュラ	0	2	10	0
終助詞	0	3	4	1

さらに，日本語諸方言コーパスモニター版（COJADS）に収録されている談話資料を基に，他方言においても後続する接語の種類が 1 モーラ名詞の母音延長に影響を与えている可能性を指摘した。具体的には，熊本市方言でも後続する接語の種類が 1 モーラ名詞の母音延長に影響を与えている可能性を指摘した。

参照文献

Hayes, Bruce (1995) *Metrical Stress Theory*. Chicago: The University of Chicago Press.
McCarthy, John and Alan Prince (1986) Prosodic morphology. Unpublished ms., University of Massachusetts, Amherst & Brandeis University.